

北陸圏広域地方計画

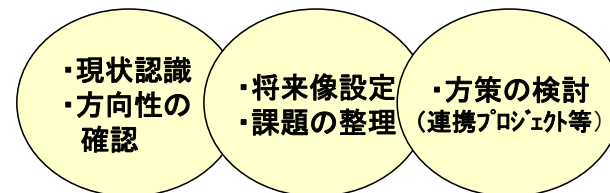
第 1 回「産業と活力専門分科会」検討資料

平成19年2月23日
国土交通省北陸地方整備局
国土交通省北陸信越運輸局

1. 「産業」と「活力」の視点からみた北陸圏の地域づくりについて — 論点(検討すべき事項・キーワード)

<各ブロックで検討すべき課題項目> (「計画部会中間とりまとめ」より)

- ①国土における自らのブロックの位置づけと東アジアの中での独自性の発掘
- ②各ブロックの特性を踏まえた域内の各都市や地域の連携方策のあり方
- ③全国共通の課題に対するブロック独自の対応策
- ④ブロック固有の課題への取り組み
- ⑤独自の地域戦略に基づく重点的・選択的な資源投入



<北陸圏の位置づけや独自性>

1. 日本列島の中央に位置する立地 (→ 45, 46P)
 - 東北圏、近畿圏、中国圏との連携で日本海側の「軸」を形成
 - 3大都市圏を後背地に持つ優位性
2. 日本海を挟んで成長する東アジアに対峙 (→ 47, 48P)
 - 東アジアとの交易の歴史や地理的優位性を持つ
3. 豊かな自然、文化的景観、山海の幸などの個性・魅力 (→ 60~61, 65~69P)
4. 人口減少、少子高齢化が他よりも早いスピードで進行 (→ 1~9P)
5. 道路、空港、港湾など社会資本整備 (→ 73P)
6. 人材や食料、エネルギー等の供給地域 (→ 49, 58P)

<「産業」「活力」に関わる北陸圏の特性・重視すべき事項 等>

1. それぞれに特色ある内発的製造業の集積(地場産業) (→ 62P)
2. 東アジアとの交易・交流に向けた港湾や空港の活用 (→ 10~20P)
3. 戦略産業としての「観光」「農業」「IT」への取り組み (→ 22~24, 53~55, 58P)
 - 北陸型観光、北陸型農業の形成に向けた産業リノベーション
4. 「北陸人」の気質や互助の風土・文化の活用 (→ 38~40, 64P)
 - コミュニティの絆や女性・高齢者の勤労意欲の高さ
 - 他地域に比べて多いNPOや地域づくり団体
 - 地域に根ざした企業も新しい「公」の担い手
5. 「雪」「水」「エネルギー」「居住」「安全・安心」など地域の資源を産業やまちづくりに活用 (→ 26, 30, 32, 49P)
6. 広域連携による「人づくり」への取り組み (→ 63P)
 - 大学間連携、広域異業種交流等による人材育成

※()内の数字は「関連動向・データ」のページ数を表します

本日
ご検討
いただきたい
事項

①北陸圏の広域的な地域づくりを検討する上で、重要な論点や事項について

→上記事項以外の項目を含めてご検討をお願いします。

②それぞれのご専門分野を中心とした北陸圏の「産業」と「活力」についてのお考え

→現状認識、将来像、将来像を実現するための方向性や方策等をご自由にお話し下さい。

2. 国土審議会計画部会「中間とりまとめ」における「産業」及び「活力」にかかわる記述・キーワード

●第1章「時代の潮流と国土政策上の課題」における記述の整理（全国共通の課題として）

<論点及び検討項目策定の方法(本資料)>

国土審議会計画部会
「中間とりまとめ」におけ
る「産業」と「活力」に関
する記述とキーワード等
の整理・抽出

→日本社会の動向と全国
共通の課題の確認

北陸圏における「産
業」と「活力」に関する
現状及び将来動向等
の整理
(北陸圏の現状や特性等の
確認)

専門部会委員との事前
面談での意見聴取

広域計画等における
記述の整理

各県長期計画等にお
ける記述

協議会準備会等にお
ける各県の関連意見

記述内容の比較・参照

→北陸特有の問題や特色(=個性)の確認
・これまで北陸圏に欠けていた視点等の
チェック

専門分科会における論点、
検討事項の整理(本資料)

「中間とりまとめ」の項目		主要課題 (産業と活力関連)	「産業」に関する 取り組みの方向・キーワード	「活力」に関する取り組みの 方向・キーワード
1. 経済社会情勢の大転換	(1) 本格的な人口減少社会の到来、急速な高齢化	人口の減少を前提とした課題	・安定した経済成長 ・労働力の確保 ・生産性の向上 ・人材の育成 ・女性・高齢者等の就業機会の拡大	・女性・高齢者等の就業機会の拡大 ・コミュニティの再生 ・定住人口以外の多様な人口の視点 ・地域活性化
	(2) グローバル化の進展と東アジアの経済発展	東アジアとの連携のための課題	・東アジアとの関係の深化 ・東アジア共通の問題の解決と貢献	・人口の高齢化等 ・知力、文化力、情報力等のソフトパワー ・教育・研究の振興 ・情報発信力を強化
	(3) 情報通信技術の発達	「衆知の時代」への対応と活用のための課題	・情報通信技術を活用した地域づくり ・情報通信技術を活用した交流の活発化	・多様な知識の結集 ・多様な形態の協働 ・衆知の時代 ・ユビキタスネットワーク環境 ・産業立地等の分散 ・テレワーク等勤務形態の多様化 ・知的生産活動の集中
2. 国民の価値観の変化・多様性	(1) 安全・安心、環境や美しさ、文化に対する国民意識の高まり	安全・安心、環境や美しさ、文化への関心の高まり	・資源やエネルギー不足への懸念 ・ゆとりや安らぎ、心の豊かさへの意識	・循環型社会の構築 ・美しい景観 ・文化芸術等
	(2) ライフスタイルの多様化、「公」の役割を果たす主体の成長	多選択社会の実現と地域活性化	・多様な働き方、住まい方、学び方が可能な多選択社会 ・多様な「居住」による地域活性化	・「多芸」 ・「二地域居住」 ・多選択社会
3. 国土をめぐる状況	(1) 一極一軸型国土構造の現状	一極一軸構造のひずみの見直し	・人口減少を克服する新たな成長戦略の構築 ・国際競争力の強化	・画一的な資源配分 ・地域間の格差 ・地域の個性の喪失 地域活力の低下 ・社会的諸サービスの維持 ・地縁型のコミュニティの弱体化 ・集落の衰退や消滅 ・新たな地域発展のモデル
	(2) 地域の自立に向けた環境の進展	広域的な観点による課題への対応	・広域ブロックの明確な地域のアイデンティティの確立 ・県域を超えた広域的な対応が必要な課題の増加	・直接交流機会の増大 ・人口・産業の集積 ・基幹的な公共施設の整備 ・国際競争力を高めうる潜在力 ・国際物流・高速交通体系等の戦略的整備 ・広域観光ルートの形成
	(3) 人口減少等を踏まえた人と国土のあり方の再構築の必要性	安全で美しい国土形成への取り組み	・魅力(日本ブランド)の世界への発信	・快適で安全な都市 ・深みのある文化・歴史や伝統に根ざした地域の暮らし・快適で信頼のおける交通サービス・美しく信頼され性能の良い「日本ブランドの国土」

3. 専門部会委員との事前面談における「産業」と「活力」に関する発言整理 (安全・安心と暮らし専門部会の委員の発言を含む)

<「北陸圏」に関わる主な発言>

- 日本の国土戦略上、日本海側や北陸圏の重要性はさらに高まる
 - 日本海側に国土軸を持つことで日本は強靱になる
 - 東アジアとの関係強化には、日本海側の強化が必要
- 北陸3県はそれぞれが異質で、これまで相互の連絡や交流は希薄。広域計画の推進主体もみえにくい
 - 3県はバラバラでまとまりがない。新潟はもう一つ遠い
 - 異質なほど連携しやすく相互に補完できる
- ユビキタスへの取り組みなど、情報通信環境への取り組みは遅れている
- 北陸圏と他の圏域との違いは「雪国」であるということ
 - これまでは災害等対策におわれてきたが、最近活用を考えられるようになってきた(克雪から利雪・親雪へ)

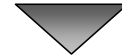
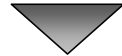
北陸圏の
現状・特性

<「産業」に関わる主な発言>

- 北陸圏の産業を強くするには、「地場」産業、開発型を強化しなくてはならない
 - 北陸の産業の強みは「ものづくり」にあり、各県にそれぞれ力と特色のある産業が展開している
- 東アジアとの距離から貿易の拡大が期待されるが、北陸(日本)の港湾は「国際ハブ港」になっていない
 - 「ハブ港」という戦略発想がなく、港湾間の役割(機能)分担も行われていない
- 産業分野において、商社的役割を担うコーディネーター機能を持つ組織や人材が不足
- 北陸圏では「観光」「農業」が産業として重要

<「活力」に関わる主な発言>

- 北陸圏には、伝統的に地域内で助け合う互助やコミュニティの強い結びつきという国土・文化がある
- 北陸圏は他地域に比べて、地域づくりに関わるNPOや住民グループが多い
- 北陸圏の企業は地域に密着しており、地域づくり等での連携が生まれやすい
- これまでのハード整備に代わって、これからの地域づくりではソフトウエアや人・情報が重要になる



- 北陸圏を中心に、日本海側を結ぶネットワークを形成する(日本海国土軸に代わる新しい概念・名称を提唱)
 - 日本海側をネットワークすることで、日本の国土は複数のルートを持つ国土構造となり、防災や交流・交易に大きな力を発揮
- 北陸圏が連携・交流するプロジェクトを立ち上げる
 - 3県(+隣接県)が一つのテーブルにつく場や機会を増やす
 - ユビキタスなど次世代型の地域づくり実験を活用
- 「雪」を活用する地域づくりの検討を推進
 - 「雪」を産業から暮らしまで多面的に活用する視点に立って北陸圏の将来性を考え、日本全国や世界には発言

北陸圏の
方向性・
方策等

- 北陸3県のコラボレーションによる新しい「北陸産業」を創出する
- 北陸圏全体による異業種交流や産業連携、大学間交流を進める(出合いやパートナーの拡大)
- 地域産業、新しい北陸産業を担う人を、北陸圏全体で育成する(人づくり学校の設立・運営)
- 「北陸」のブランド化など、「北陸」を付加価値化
- 「観光」「農業」「安全・安心」など、北陸圏が優位性や独自性を持つ分野の産業化を図る

- 様々な分野、様々な主体間で「連携しつつ競争する」という「しくみ」(北陸システム)を導入する(競争による活性化戦略)
- 企業のNPO、住民グループを巻き込んだ広域的な地域づくりの主体や活動ネットワークを形成する
 - 新しい「公」による国土管理や地域づくりのシステム
 - 広域計画の推進主体を協議会方式で創出
- 北陸圏の地域づくりに関わる人材育成(再チャレンジを含む)を3県共同で実施する

4. 広域計画、各県長期計画、その他協議会準備会等における関連意見等の整理

(1) 広域計画等の記述整理

	「北陸地方開発促進計画（第4次）」 （国土庁 H11年）	「北陸21世紀ビジョン」 （北陸経済連合会 H9年）	「北陸の地域づくり戦略」 （北陸の地域づくり戦略会議 H12年）
--	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------------

特性
(資源)

<p><自然・地形特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ●起伏に富んだ多様性のある自然 ●肥沃な土地と豊かで清冽な水 ●四季の明瞭さを生む気候・気象 ●脆弱な地勢 	<p><地理的特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本列島の中央に位置(扉の要) ●北東アジア諸国に向かい合う(アジアのゲートウェイ) ●日本の3大都市圏に隣接 ●日本海に面し水運を活用できる位置にある ●東西日本を結ぶ日本海国土軸の中核圏域 	<p><社会特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ●北陸地域の潜在力と可能性 ●均衡ある都市の連なりと集積 ●歴史の中で培われた独自の文化資産 ●数多く残る歴史的な遺産 ●忍耐強い北陸人気質、優れた人材の宝庫 ●快適でゆとりある居住 ●働く女性が多い 	<p><産業特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本の食糧供給基地 ●日本のエネルギー供給基地 ●個性的な製造業の展開 ●日本の文化を守り次代に継承する伝統工芸・伝統産業 ●北東アジアのゲートウェイに向けての流通業の活性化 ●資源を活用した観光・交流産業の基盤
---	--	--	--

めざすべき
将来像

<p><位置づけ></p> <p>我が国の21世紀の新たな発展を切り拓くフロンティア</p> <p><めざすべき道></p> <ol style="list-style-type: none"> ①コンパクトな地域の中に変化に富んだ豊かな自然と魅力ある都市が重層的に共存し、ゆとりと利便性をあわせ享受することができ、人々の価値観に応じて多彩な生活や就業が可能な北陸となっていくこと ②しかも活力があり、また環日本海交流を先導する世界に開かれた北陸となっていくこと <div style="background-color: #00b050; color: white; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>日本海国土軸の形成を先導する地域</p> </div>	<p><産業></p> <p>中期: 北陸3県の総力が結集され、多数の世界企業が活躍している 長期: ハイテク産業と高度な感性産業のメツカとなり、北陸ブランドが輝く</p> <p><交流></p> <p>中期: 市民レベルの交流や県際交流が活発化している 長期: 様々な分野における交流、県境・国境を越えた交流、市民レベルでの交流の進展・充実により、人・地域が輝く</p> <p><生活></p> <p>中期: 一人ひとりが自立し人々の交流が充実している 長期: 生活者のコミュニティを主体とした地域づくりにより、自立した自由な都市圏が形成され、生活者が輝く</p> <p><文化></p> <p>中期: 伝統文化の継承や新しい文化の形成が活発化している 長期: 地域文化の国際的ネットワークを形成し、地域文化が輝く</p>	<p><位置づけと地域づくりの方向></p> <p>21世紀の日本を支える「日本海国土軸」の中核圏域(エリア)として、北陸地域全体の中核性を高め、自立とさらなる発展を実現していく</p> <p><めざすべき将来像></p> <ol style="list-style-type: none"> ①多自然居住地域の創造 ②日本海国際交流の中核圏域・北陸 ③日本海国土軸の中核圏域・北陸
---	--	--

北陸圏の
課題

<ol style="list-style-type: none"> ①都市の連なりと三大都市圏への近接性を生かし、連携・交流する北陸を創造 ②優れた住環境の下で、自然に恵まれ文化の香り高い生活圏を創造 ③小さな世界企業等個性的な北陸産業の形成を促進 ④環日本海交流を先導し、新たな国際交流を展開する北陸を実現 	<ol style="list-style-type: none"> ①北陸の『知恵』を結集した産業の創造 ②グローバルな交流・地域交流の推進 ③暮らしやすい社会生活システムの形成 ④伝統文化の継承と新しい文化の創造 ⑤総合的な地域経営の視点と新しい方法論の確立 ⑥北陸を支える人材の育成 	<ol style="list-style-type: none"> ①地域づくりの前提としての安全・安心の確保 ②地域時代をにらんだ国際的な交流と圏域づくりの推進 ③少子高齢化時代を見据えた活力ある北陸づくりの推進 ④多自然居住のフロンティア圏域としてのライフスタイルの確立と発信 ⑤高度情報化社会への地域一体となった取り組み・対応 ⑥持続的な発展に向けての活力ある産業の形成・拡大 ⑦次代を担う「人づくり」(北陸人育成)の推進
---	--	--

(2) 各県の長期計画等の記述(整理)

「富山県民新世紀計画」(H13年)【新計画策定中】

<特性>

- 環日本海諸国との地理的優位性
- 三大都市圏への近接性
- 日本海側屈指の経済水準
- 美しく豊かな自然
- 特色ある文化
- 良好な住環境等

<世界・日本の中での富山県>

- 環日本海交流の中央拠点
- 日本海国土軸の形成

特性
・
現状

- グローバルな時代
- 高度情報化、ネットワークの時代
- 環境の時代
- 知恵と技術の時代
- 少子・高齢化、人口減少の時代
- 個性化、地方分権の時代

時代への視点
・
地域課題

水と緑といのちが輝く 元気とやま

<政策の柱－5つの立県構想>

- ①【人材立県】元気で創造性豊かな人づくり
- ②【生活立県】安全・安心で快適な暮らしづくり
- ③【環境立県】環境と調和した美しい地域づくり
- ④【産業立県】知恵と技術が活きる産業づくり
- ⑤【国際立県】環日本海交流の中央拠点づくり

将来性
・
方向性

「石川県新長期構想」(H8年)【新構想改定中】

<地域的特性>

- 三大都市圏に近接
- 環日本海地域の中心に位置

<資源的特性>

- 良好な自然環境
- 豊かな観光余暇資源
- 伝統と創造の文化集積
- 高等教育研究機関の集積
- 勤勉で質の高い人材
- 小さな世界企業の集積

<地球時代>

- 自然と人との共生
- 国際交流・貢献
- 交流、連携による生活圈等の広域化、拡大
- 本格的な高度情報化社会の到来

<成熟時代>

- 少子化、高齢化、人口減少
- 男女平等参画社会
- ゆとりと個性尊重社会

<地方創造時代>

- 地方分権
- 個性的な文化の創造社会
- 環日本海の中核県
- 創造産業社会

個性・交流・安心のふるさとづくり
－世界に開かれた文化の国づくり構想－

<5つの発展方向>

- ①人、もの、情報が交流する「いしかわ」
- ②個性的な人づくりと文化の創造を目指す「いしかわ」
- ③自然と人との共生する「いしかわ」
- ④安心と楽しさの生活が実感できる「いしかわ」
- ⑤国際競争のある知恵とモノづくりを目指す「いしかわ」

「ふくい2030年の姿」(H17年)

<人と暮らし>

- 健康長寿県
- 堅実で勤勉といわれる県民性
- 積極的に人より前に出たがらない気質
- 多世代が同居する福井の大きな家
- 豊かな伝統と文化が存在

<仕事と社会>

- 繊維、眼鏡、機械などものづくり産業の集積
- 稲作中心の農業
- 兼業農家比率日本一⇔低い農業所得
- 中山間地の過疎化と高齢化の進行
- 転出超過県、人口移動の少ない県
- 15基の原子力発電所の立地
- 自然災害による被害の続発

●人口減少・長寿社会

－知識・技術を生かす新しい社会の実現－

●経済構造の変化

－新しい質と尺度の経済社会へ－

●グローバル社会

－大交流の時代に向けて－

●情報社会

－バーチャルによるリアリティの実現－

生活優先・自立社会

- ①「知活福井」(産業・働き方)
- ②「四通八達福井」(社会基盤)
- ③「福縁福井」(地域社会)
- ④「夢福井人」(人)

(3) 協議会準備会等における発言等

＜協議会準備会における「広域地方計画」への主な発言＞

分類	主 な 発 言
北陸圏全体	<ul style="list-style-type: none"> ● 地理的優位性を活かした東アジアとの交流・連携による新たな飛躍をめざす ● 日本海国土軸・環日本海交流圏の形成が必要 ● 交流人口の拡大のために広域的な交流基盤の整備が必要 ● 東京に過度に依存しない地域づくりが必要 ● 新しい価値観にあったライフスタイルの創造につながる将来戦略づくりが必要 ● 地方と東京は互いに補完し合う関係であるべき ● 北陸のターゲットは太平洋側とアジアである ● 人口流出の背景をしっかりと探る必要がある ● 日本海国土軸の形成として交通基盤が不十分 ● 地方港湾の整備も必要
安全・安心 と暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ● 海岸保全・海洋汚染・黄砂などの対策をしっかりと欲しい ● 流木も大きな課題であり、森林や河川など流域全体としての対策をしっかりと欲しい ● 漂着ゴミ問題が顕在化している ● 中山間地の人口も減少し、人間と獣の生活境界がなくなり、住みたくても住めなくなるおそれがある ● 地球温暖化・グローバル化により害虫の影響が懸念される
産業と活力	<ul style="list-style-type: none"> ● ものづくりの伝統を活かした産業集積が必要 ● 国際観光・広域観光の推進が必要 ● 賑わいあふれるまちづくりが必要 ● 農業・農村の振興等が必要 ● 東アジアとの交流基盤として港湾、空港の整備が必要 ● 活力ある地域産業の振興が必要 ● 産業官間又は産業間の連携による企業立地を促進 ● 「食」資源を産業化につなげて欲しい ● 強みは学術・文化を背景としたものづくりであり、さらに強化する必要がある ● 農地の荒廃、林地の荒廃が懸念されるが、後継者不足、土地所有者不明などにより保全等が難しくなる ● 豊富な自然があり、観光・定住環境が整っているので、あとは新幹線などの高速交通体系が整いさえすれば、地域の活性化や東京にある企業の支店の進出なども充分見込める

＜全国計画に対する各県の計画提案＞

県	提 案 (意 見)
富 山 県	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新たな国土軸の形成による、多軸型、多極型の国土構造への転換 2. 日本海国土軸の形成 3. 日本海沿岸地域における社会資本の整備・活用の促進 4. 環日本海地域の環境保全の推進 5. 新幹線の整備促進及び並行在来線の機能維持・向上 6. 公共交通の活性化と交通の円滑化 7. 中心市街地の活性化 8. 地方における企業立地の促進と新産業の創出 9. 国際観光の推進 10. 医師及び看護職員の地方における不足の解消 11. 子育て支援の促進 12. 多文化共生社会の実現 13. 雪対策の推進 14. 森づくりの推進
石 川 県	<ol style="list-style-type: none"> 1. 北陸新幹線の早期全線整備促進 2. 地方空港の国際化～CIQ体制の整備・充実 3. 日本海における港湾の整備・振興 4. 子育て支援の充実 5. 世界遺産登録の推進
福 井 県	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一極一軸型国土構造から「自立・連携型」国土構造への転換 2. 「自立・連携型」国土の実現に向けた整備新幹線や高規格幹線道路等の高速交通ネットワークの重点整備 3. 電源立地地域と原子力の自立的な連携、安全確保、国際貢献の推進 4. 災害対策等の充実強化（国民保護と原子力防災・テロ対策、雪害対策）
日本海沿岸 (1府11県) ※新潟、富山、石川、 福井、京都	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多軸型国土構造の形成 2. 日本海国土軸の形成 3. 日本海沿岸地域における社会資本の整備・活用

＜国土形成シンポジウムにおける主な発言＞

基調講演	<ul style="list-style-type: none"> ・対アジアとの関係から日本海側の重要性が高まっている ・これからは「文化力」に力点を置き「文化的景観」をキーコンセプトに魅力ある地域づくりを進める
パネル ディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸は日本海交易の要地として栄えたが、明治以降の東京一極集中で相対的地位を下げた ・繊維や機械、医薬品など幅広い産業は日本海側随一 ・北アルプスや日本海、歴史遺産など観光資源が豊富 ・北陸の優れた居住環境を活用して「二地域居住」や企業誘致を進める ・北陸に豊富な「水」「エネルギー」「土地」の活用を考える ・観光分野では地域連携と、産業観光、歴史資源等の新たな資源の発掘が重要 ・北陸の大学を地域づくりに活用していく(連携、大学の街づくり等)

5. 「北陸地方の活力ある地域をつくる懇談会(H17年度)」における関連発言の整理

<「北陸圏」に関わる主な発言>

北陸圏の
現状・特性

- 北陸新幹線と東海北陸自動車道の開通は大きなメリットだが、一方で平行在来線の問題などで日本海国土軸が分断されかねない
- 北陸地域の連携には交通網の充実が不可欠である
- 住民や企業・行政など地域づくりに向けた新たな連携が必要
 - 住民や企業・行政が同じテーブルについたり、ネットワークで行動するといった「しくみづくり」が重要。
 - 河川行政と農政が連携を強化すれば、北陸の農村風景や農業はもっと良くなる。
- 北陸の「水」は世界に誇れ、貢献できる資源。また雪や景観はこれからの売り物になる
- 食料・エネルギー分野において北陸は貢献をしており、その役割は大きい。
 - 北陸の原発や水力発電はエネルギー供給源としてはもちろんだが、二酸化炭素の抑制にも貢献している
- 「コシヒカリ」は北陸の文化・文明の象徴であり、シンボルとしてもっと活用してもよいのではないか

<「産業」に関わる主な発言>

- 北陸の産業は全国有数だ
 - 北陸は産業的には一番強いところではないと思う。1人当たりのGDPを比較すると、地方圏の中では北陸は飛び抜けている。
 - 石川の伝統産業、富山のアルミ、医薬品、福井には繊維など、北陸には個性ある産業がそれぞれの街にある。
- 観光・交流産業への取り組みが必要
 - 集客交流産業の経済波及効果は大きい。もっと活用・発展を考えるべきだ。
 - 「産業」と「交流人口」をかけあわせる取り組みが有効。
- 観光を既存産業の連携で、北陸の産業は活性化する
 - 産業観光のように、既存の北陸の産業がもっと観光と結びつくとよい。相乗効果が生まれ、北陸の産業全体が活性化する。
- 日本海側はホットな地域になる。中国など東アジアとの物流は巨大な富のコースになる

<「活力」に関わる主な発言>

- 北陸の活性化のためには、「裏日本」イメージの転換・払拭と、魅力の情報発信が不可欠
 - 「裏日本(=田舎)」という言葉やマイナス・イメージを何とかする。負の認識を転換する必要がある。
 - これからは地方の特色や個性をどう発揮していくか、発信していくかが重要。
- 北陸の活力を高めるには「交流人口」の拡大が不可欠
 - 「定住の確保」「人口流出抑制」は守りの姿勢だ。居住(移住)者の拡大や交流人口の拡大の考え方が必要。
 - 北東アジアに限らず、外国からの交流人口の拡大を考えるべき。
- 中心市街地の活性化が重要
 - 北陸でもシャッター街が増えている。高齢化が進行すると郊外の大型店は利用しにくくなるので、まち中に賑わいが必要になる。
 - 北陸の地方都市に元気がない。それがさびしい印象にもつながっているように思う。

北陸圏の
方向性・
方策等

- 北陸の地域づくりには日本海国土軸の形成が必要である
- 「更新」「活用」の時代をみすえて、今後の北陸の社会資本にはレベルの高いもの、長期間持つものを考える
- 北陸の「水」や「雪」を資源として捉え活用する視点が重要
- 北陸のアイデンティティが感じられるコンセプトやキーワードが、広域連携では重要になる

- 北陸の「ものづくり」産業の活性化が必要
 - 特色ある産業をアジアや世界でナンバーワンになれるようにもっと育てていく。これからは技術の応用や豊かな居住環境を活かして、IT産業等の研究開発機能を呼びこむことも考える。
- 観光の核の創出が観光振興につながる
 - 観光の核となるものを連携して考える。それを中心に長期滞在型のまちづくりを進める。
 - 雪をはじめとする他にないものをどうお宝として、知恵を出して、プラスに転じて、売りにしていくのがこれからのポイントだ。
- ホスピタリティの醸成に向けた具体的取り組みや地域づくりが重要
 - 観光は口コミで拡がるのでホスピタリティが重要。まちの案内板や標識、看板も重要だし、おもてなしができる人づくり、そして住民の意識改革も必要になる。

- 他地域へ向けた北陸らしさをアピールできる、具体的な情報発信が必要
 - 訪れたいコンテンツを磨き発信する。また連携やネットワークで魅力を高めることも有効になる。
- 個性や特性を磨き「人をひきつける」地域づくりを進める
 - 他地域にはないもの、優っているものがひきつける力となる。北陸の「雪」や「農」はそうした力になる。
 - 北陸内での連携(水平的なテーマ・ネットワーク)が人をひきつける。また互いに競い合うことも必要。
- 北東アジアをはじめ、外国との人的交流に向けた取り組みが必要
 - 北陸でアジアからの留学生を1000人規模で受け入れるといった、大きな考え方が必要。